



CEPF—グローバル・オーバービュー

生物多様性は、地球上の生命にとってきわめて重要です。この生物多様性が最も豊かなのが「生物多様性ホットスポット」です。地球の生物多様性の90パーセントがホットスポットに存在しています。

クリティカル・エコシステム・パートナーシップ基金 (CEPF) は、人にも自然にも恩恵をもたらす、これら重要な地域の保全に向けた、新たなアプローチを示しています。CEPFは—

- ・ 地球上で生物学的に最も豊かでありながら脅威にさらされている地域—ホットスポット—の保全に努めます。
- ・ 重要な生態系 (クリティカル・エコシステム) の保全に、市民社会が参加し、影響力を行使できるようにします。
- ・ 人々がその生活の基盤である生態系から恩恵を受けられるよう支援し、経済的福祉を向上させます。
- ・ 地方、地域、国際社会の関係者を結集し、すべてのホットスポットにおいて、それぞれ保全に向けた共通のビジョンを築き上げ、これを実現させます。
- ・ さまざまな援助機関をとりまとめ、保全活動に対する資金供与の効率と効果を最大限に高めます。
- ・ 具体的かつ再現可能で、数字で計測可能な成果を挙げます。

CEPFは、多くの援助機関がなかなか接触できないような各国内の全国組織や地域団体に資金を提供し、開発と環境保全との橋渡しの役割を担っています。設立以来、CEPFは**1,800を超える市民社会団体**を支援し、**60以上の国と地域**において生物多様性ホットスポットを守るさまざまなプロジェクトの実施を後押ししてきました。

1億5,000万ドルを超える助成金を通じたCEPFの革新的な資金メカニズムによって、市民社会が強化されるとともに、保護地域として新たに指定または拡張された地域の面積は**合計1,200万ヘクタール**にのぼるほか、世界的に重要な**2,900万ヘクタール**の土地の管理が改善されています。CEPFの助成金受給者は、この助成金のレバレッジ効果により、ホットスポット保全のための追加資金を**3億1,800万ドル (約318億円)** 調達しています。これはCEPFによる助成額の2倍を超える額です。

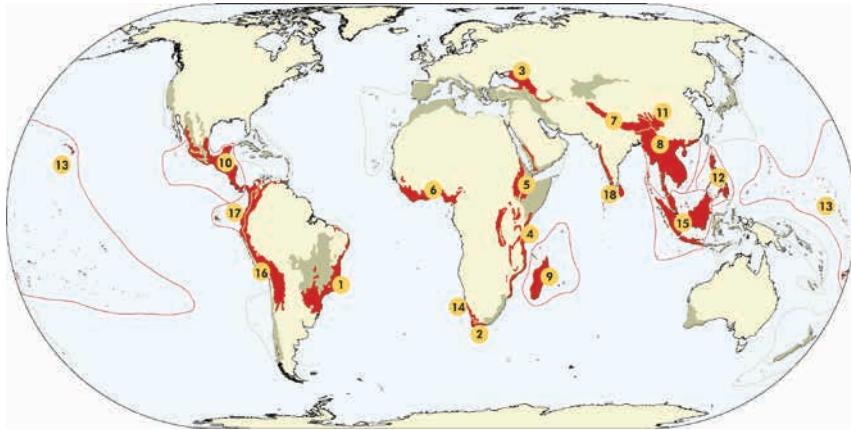
数字で見るCEPF

設立	2000年
助成金の支給開始	2001年
実施されたホットスポット戦略	22
生物多様性保全のための重要地域 (KBA)	582地域
対象となっている国や地域	60カ国・地域
支援を受けた市民社会団体	1,800団体
支給された助成金の総額	1億5,000万ドル (約150億円)
レバレッジ効果による調達資金	3億1,800万ドル (約318億円)

CRITICAL ECOSYSTEM
PARTNERSHIP FUND

2011 CRYSTAL DRIVE, SUITE 500
ARLINGTON, VA 22202 USA
PHONE 1.703.341.2400
FAX 1.703.553.0721
WWW.CEPF.NET

対象地域



CEPFによる資金提供アプローチの中核を成しているのが、生物多様性ホットスポットです。ホットスポットは、地球の地表面積のわずか2.3パーセントを占めるにすぎませんが、地球上に存在する生物種の90パーセント超がここに生息しています。また、きれいな水や空気をもたらし、洪水や気候を制御し、土壌の再生や作物の受粉を助け、人々に食料や薬、さまざまなものの原料を供給する地域でもあります。

生物多様性は生息地としての地球の質全般を左右するきわめて重要な役割を果たしているため、ホットスポットへの脅威は人類への脅威でもあります。ホットスポットにおけるCEPFの助成は、生物多様性の面で最も重要であり、かつ人類社会に不可欠な恩恵をもたらしてくれる地域を対象としています。2000年の設立以来、CEPFは世界に35カ所あるホットスポットのうち、22カ所を対象に資金提供を行ってきました。

パートナーを結束する

全人類のために健全な生態系を確保するには、さまざまな課題に取り組むだけでなく、数多くある好機にも対応するため、パートナーシップによるアプローチが不可欠であることがわかっています。

CEPFは、世界的なリーダーである7つの組織が、共通のビジョンのもとで結束して生まれました。重要な生態系を保護しながら経済的繁栄を推進していけるよう、市民社会を支援することによって、保全活動に対する資金供与の効率と効果を最大限に高めています。

人々に恩恵をもたらす

「貧困にあえぎ、生存に必要とされる多くを健全な生態系に頼っている莫大な数の人々が、保全にとって重要な地域に集まっている」という事実がホットスポットほど顕著に見られる場所はありません。このような重要地域の保全は、きれいな空気、新鮮な水、健全な土壌など、人々の生命維持に欠かせない恩恵を確保することにつながります。

CEPFはまた、人々がその生活の基盤である生態系から恩恵を受けられるよう支援し、経済的福祉を向上させてもいます。例えば、自然に根ざした代替的な生計手段を創出し導入するよう促し、環境保全と開発の結びつきを強めています。具体的には、エコツーリズムから石けん製造、蝶の養殖までさまざまです。

タンザニアでは、国際昆虫生理生態学センターがCEPFの支援を受けて、貧しい地域住民を対象にトレーニングを行い、森林の生物多様性を消費する代わりに、蝶やカブトムシの養殖、薬草の栽培、有機ハチミツや生糸の生産、加工、販売を行うようにしました。この結果、地域の収入は15～25パーセント増加し、地元の学校建設に役立てられています。

市民社会

ボリビアとペルーの国境地帯では、CEPFの助成金受給団体との連携のもと、両国の国立公園の管理当局が国境をはさんだ保護地域をともに管理することで合意し、総面積100万ヘクタールを超える保護地域を新たに指定しました。熱帯アンデス・ホットスポットに含まれるこの地域では、CEPFの支援を受けて、新たに指定された、または拡張された保護地域が400万ヘクタール近くにのぼっています。

長続きする保全活動のカギを握るのは市民社会である、とCEPFは考えます。非政府組織（NGO）や地域団体などの市民社会パートナーが、重要な生態系の保全に参加し影響力を行使できるようにする、というのが、CEPFによるアプローチの大きな特徴です。

CEPFは、柔軟性と機動性に富んだ資金メカニズムによって、市民社会へ助成金を提供しています。当該ホットスポットの地域実施チーム（RIT）が助成金プロセスを主導し、パートナーとして見込まれる関係者を特定したり、現地でプロジェクト設計を直接支援したりして、その地でのリーダーシップを発揮し知識を提供します。CEPFの助成金受給者は1,800団体にのぼり、小さな農業協同組合から地域団体、民間部門パートナー、国際組織までさまざまです。

戦略的アプローチ

助成金受給に先立ち、各地域では市民社会団体の参画により「エコシステム・プロファイル」を作成します。これらのプロファイルはそれぞれ、資金拠出の対象となる分野を特定し、望まれる成果や支援戦略の概略を記述したものとなっています。

政府パートナーを含め、さまざまな利害関係者がエコシステム・プロファイルの策定にかかわり、最優先課題は何か、CEPFの投資をどこに注入すれば最大の価値を生み出せるかなどについて合意形成します。このプロセスによって、幅広い参加と透明性が確保されます。

こうして得られた結論とCEPFの戦略は、ほかの援助機関や政府、非政府パートナーにも利用され、資金提供や具体的措置の優先順位を決める一助となっています。生物多様性の面で重要な数多くの地域を対象に、確固たる戦略を練り上げてきたことこそ、ホットスポット保全に向けたCEPFの貢献の中でもきわめて意義深いものだといえるでしょう。

スマトラ島北部では、国政府でなく地方自治体が国立公園を指定できるように定めた新法のもと、CEPFの支援を受けた地域のリーダーたちがバタン・ガディス国立公園を設置しました。バタン・ガディスを国立公園として保護するのは、北スマトラ生物多様性保全回廊を形成する計画の一環です。この緑の回廊は、近隣の保護地域や森林を経て、島の北部に位置するグヌン・ルーサー国立公園へつなげられていきます。



これまでの成果

「この10年間のクリティカル・エコシステム・パートナーシップ基金（CEPF）の取り組みは、地球の生物多様性の損失を食い止めようと人類がこれまでに行ってきた対応の中で、最も有意義なものである」

——CEPFが世界の自然保全に与えた影響に関する第三者評価報告書（2010）年4月

CEPFが世界の自然保全にどのような影響をもたらしたかを評価した、第三者による独立評価報告書が2010年に出版されました。その中で、CEPFによる貢献の中でなによりも意義深いのは、最も優先されるべきでありながら十分な注目を浴びることがなく、持続的な関心も寄せられなかった世界各地の生物多様性重要地域の多くに、それまで欠けていた保全への認識をもたらしたことであり、と述べられています。

また、別の2010年の研究によれば、CEPFの2000年から2010年までの10年間で1億2,400万ドル（約124億円）に及ぶ助成金は、世界中の重要な生物多様性保全のための重要地域（KBAs）の4分の1、およそアラスカ州と同規模の範囲に貢献したことが分かっています。この助成額は、過去10年間の発展途上国に対する生物多様性関連支援総額のうちの、ほんの0.5パーセントに過ぎないものですが、とはいえ、これにより同じ10年間に設立されたすべての陸上保護地域の6パーセントの設立に貢献できたことから、世界の生物多様性ホットスポットの保全に対するかけがえのない貢献であったと言えるでしょう。

主な業績

生物多様性保全のパートナーとして、観光業、漁業、鉱業、林業、カカオやコーヒー、米、ワインの生産など、20以上の業種に取り組みました。民間企業のパートナーとしては、南アフリカにあるデビアス社のナマクアランド鉱山、ガーナのクアパ・ココー農業者組合、フィリピンでのユニリーバ社などが挙げられます。

80を超える市民社会団体のネットワークを創設し、スマトラ島や西アフリカ・ギニア原生林地帯など、環境保全に対する取り組みがこれまで相互の連携がなげばならならに行われていた地域で、新たなネットワークのモデルを生み出しています。

生物多様性の保全を後押しし、地方や国レベルでの開発政策に生物多様性保全の主流化を推進する分野別政策や法規制の導入を、25件以上実現させました。フィリピンでは、CEPFが特定したKBAのすべては「重要な生息地」である旨が、大統領令第578号で宣言されています。

CEPFは、以下の世界的リーダーの力を結集させた、革新的なパートナーシップです：

フランス開発庁 (www.afd.fr)
欧州連合 (<http://europe.eu>)
日本政府 (www.env.go.jp/en/)
世界銀行 (www.worldbank.org)

コンサベーション・インターナショナル (www.conservation.org)
地球環境ファシリティ (www.thegef.org)
マッカーサー財団 (www.macfound.org)

CRITICAL ECOSYSTEM
PARTNERSHIP FUND

2011 CRYSTAL DRIVE, SUITE 500
ARLINGTON, VA 22202 USA
PHONE 1.703.341.2400
FAX 1.703.553.0721
WWW.CEFP.NET

PHOTOS LEFT TO RIGHT, TOP TO BOTTOM:
© CI/PHOTO BY HAROLDO CASTRO
© CI/PHOTO BY STERLING ZUMBRUNN
© CI/PHOTO BY JOHN MARTIN
© ART WOLFE*/WWW.ARTWOLFE.COM/iLCP
© CRISTINA MITTERMEIER*/iLCP

*Member

